

「課題発見・解決学習」の取組 成果と課題

海田町立海田南小学校

学びの変革推進担当 清水 葉月

1 取組

(1) 昨年度までに開発した「生活科」や「総合的な学習の時間」の単元の質の向上を図り、カリキュラムマップを更新した。

第1学年 「自分と身近な人々・社会・自然とかかわろう」(ふるさとと出会う)

・家族や地域の人と関わり合うことをテーマに、昔遊びを教わるなどの交流活動を行った。

第2学年 「自分と身近な人々・社会・自然とかかわろう」(ふるさとと触れ合う)

・道徳科との関連として、児童が保護者からお手紙をもらう機会を2度設定した。

第3学年 「やさしさ発見・とどけ隊」(身近な福祉)

・年間を通して福祉をテーマに学習活動を設定した。

・体験活動を多く取り入れた。

例) 高齢者体験, 盲導犬, 点字, 白い杖の会, 手話, 老人ホーム

・3学期はこれまでの学習を生かし, パラリンピックについて調べ, 他学年に向けてクイズ大会を行う予定。

第4学年 「自然災害を知り, 海田町を守ろう ～みんなの命守り隊～」

・1時間の児童の学び方を評価した。

・ゲストティーチャーとして, 海田町役場の砂防課の方々をお招きした。

・栄養教諭と連携し, 非常食に必要な水の量を計算するなど, 実際に使える知識を学んだ。

第5学年 「ふるさと海田の魅力発見! ～南小校区お宝発掘し隊～」

・事前に調べ学習を行い, 海田市ガイドの会の方々にかきたいことをまとめ, 情報を収集した。

・学んだことを, 保護者だけではなく, 地域にまで広げることを新たなゴールとして設定した。

第6学年 「ぼくの夢 わたしの夢 ～未来に輝くための自分探し～」(キャリア)

・新たにキャリア教育を中心とした単元を開発した。

・卒業に向けて, 他教科との関連を図りながら学習活動を進めた。

(外国語活動・道徳科・図画工作科など)

・ゲストティーチャーとして大松しんじさんをお招きした。

実践例: 第5学年総合的な学習の時間「ふるさと海田の魅力発見! ～南小校区お宝発掘し隊～」

【単元のねらい】

・校区のお宝を紹介する, 「お宝ガイドツアー」を行うという学習活動を通して, ガイドブック作成やツアー開催に向けて収集した情報の中から, 必要な情報を選択し, 地域の魅力をたくさんの人によりよく伝えていこうと工夫することができる。

・地域への愛着を深めながら, 校区の魅力をたくさんの人に伝えられる喜びを感じ, 自分自身の成長や友達のよさに気付くことができる

【学習の流れ】

①課題の設定(昨年度までの学習から)

②情報の収集(海田町かるた・西国街道・海田市ガイドの会によるガイドツアー・調べ学習など)

③整理・分析(ガイドブック作り)

④創造・まとめ・表現(保護者に向けたお宝ガイドツアー)

【成果】

・校区に残る文化財や歴史を知ることによって, 地域への愛着をもつことができた。

・国語科や道徳科と関連させることで, 学習を深めることができた。

・昨年度の取組をもとに, 学習計画を検討し, 内容を入れ替えたり加えたりしたことで, 単元の質を向上することができた。

・保護者, 地域と連携しながら学習を進めることができた。



(2) 各教科の「課題発見・解決学習」において, 領域・学年を拡大して, 全教員が1単元以上実践. HPに公開をしている. <http://www.kaitaminami-e.ed.jp/>

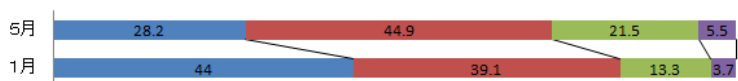
2 取組の結果（第1回～第3回 学びの変革意識調査から）

(1) 成果

(グラフ1)

「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいます。（3年生以上）

■よくあてはまる ■少しあてはまる ■あまりあてはまらない ■全くあてはまらない



(グラフ3)

授業では、調べたことなどを、図、グラフ、表などにまとめています。

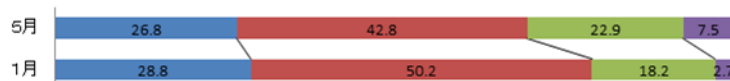
■よくあてはまる ■少しあてはまる ■あまりあてはまらない ■全くあてはまらない



(グラフ2)

授業では、課題を解決するための情報を集める前に、どのような方法だと必要な情報を集めることができるのかを考えています。

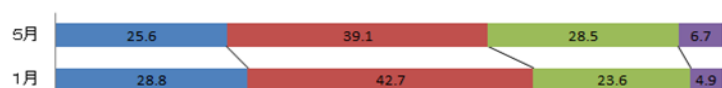
■よくあてはまる ■少しあてはまる ■あまりあてはまらない ■全くあてはまらない



(グラフ4)

授業では、自分の考えとその理由を明らかにして、相手に分かりやすく伝えるように発表を工夫しています。

■よくあてはまる ■少しあてはまる ■あまりあてはまらない ■全くあてはまらない



- 「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる（3年生以上）」児童の肯定的評価の割合が、10ポイント増加した。（グラフ1）

⇒・カリキュラムマネジメントの考え方に基づいて、各学年がカリキュラムマップを作成した。
・昨年度までの課題を改善しながら単元の質を向上させた。

- 「課題を解決するための情報を集める前に、どのような方法だと必要な情報を集めることができるのかを考えている」児童の肯定的評価の割合が、4.2ポイント増加した。（グラフ2）

⇒・総合的な学習だけでなく、各教科において、教師と児童が単元のゴールを共有した。
・課題解決のために「何をどのように情報収集すればよいのか」学習活動の目的を明確にもつことができた。
・学校司書と連携し、各学年で「本の分類」や「百科事典の使い方」の指導を行い、情報収集の手段として学校図書を使用することの意義を児童に学ばせることができた。

- 「調べたことなどを、図、グラフ、表などにまとめている」児童の肯定的評価の割合が、5.1%増加した（グラフ3）「自分の考えと理由を明らかにして、相手に分かりやすく伝えるように発表を工夫している」児童の肯定的評価の割合が、6.8%増加した。（グラフ4）

⇒・自分の考えを具体的に表現している各クラスの「ノート名人」を選んで毎月掲示し、ノート指導を充実させた。
・学級に1枚ずつ話型を掲示し、発表の仕方を意識させた。

(2) 課題

自分で勉強の計画を立てています。

■よくあてはまる ■少しあてはまる ■あまりあてはまらない ■全くあてはまらない



- 「自分で勉強の計画を立てている」児童の評価の割合は、「よく当てはまる」と回答した児童は3.7ポイント増加しているものの、「よく当てはまる」「当てはまる」を合わせた肯定的評価の割合は、0.5ポイント減少した。

⇒児童と単元のゴールを共有することはできているが、ゴールに向けて何を学んでいく必要があるかを話し合わせながら学習活動を設定していく時間が不十分である。

4 来年度に向けて

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、学校全体として改めて児童の実態を把握し、目標としている資質・能力を見直していく。そのうえで、児童の実態に応じた課題設定の在り方を考えたり、思考を深める手立ての工夫を行ったりする必要がある。

特に、課題設定の場では、児童と単元のゴールを共有するだけでなく、ゴールに向けての学習計画を児童と共に設定していきたい。課題を解決するための情報収集の場で、既存の知識や技術を活用しながら気付きや情報を蓄積し、それらを整理・分析して思考する活動の場を充実させていく。また、児童が考えを積極的に伝えることができるように、協働して考える時間を十分に確保し、考えを広げたり深めたりできるよう取り組んでいく。